

蚊に注意ーデング熱についてー

保健管理センター・環境安全管理センター

2014年8月より、国内でデング熱に感染したことが確認された患者が報告されています。デング熱は蚊を介して感染するものでヒトからヒトには直接感染することはありません。また、デング熱は感染しても重症化することはまれです。

本年も「蚊の季節」となってきましたので、教職員や学生諸君が蚊に刺されないよう、注意を喚起します。

デング熱の症状について

蚊に刺されてから3～7日程度で高熱のほか、頭痛、目の痛み、関節等の症状が見られれば、デング熱の可能性もあるため、早めに医療機関を受診してください。症状は、突然の高熱、関節痛・筋肉痛・目の奥の痛み、発しん等で、ワクチンや治療薬はありませんが、通常1週間程度で回復します。

予防について

本学では、大学内に緑が多く、また屋外での実験・実習、研究活動や調査等が多くあります。ヒトスジシマカは日中に活動し、ヤブや木陰などでよく刺されます。本学では蚊に接する機会が多いと思われるので、次の事柄を念頭に置いて、教育、研究、大学業務等に携わってください。

○緑の多い木陰やヤブなど、蚊の発生しやすい場所に立ち入る際には、次の事に気を付けて下さい。

- ①**長袖シャツ、長ズボンなどを着用**し、肌を露出しないようにしましょう。
- ②**素足やサンダル履きはできるだけ避け**ましょう。
- ③必要に応じて**虫よけ剤などを使用**しましょう。

○建物の中に蚊が入り込まないようにドアや窓の開け閉めを減らし、網戸や殺虫剤を使用しましょう。

○蚊を増やさないう、屋外に雨水がたまる物を置かないようにしましょう(空き缶や植木の受け皿などはできるだけ片付けましょう)。



(ヒトスジシマカ: 国立感染症研究所HPより)

参考資料 ・ 厚生労働省ホームページ ・ 国立感染症研究所ホームページ

もしもデング熱感染と診断された場合は、大学の保健管理センターにご一報ください。

府中地区 042-367-5548 小金井地区 042-388-7171